

マイナスを分かち合い プラスに変える

志波早苗さんの講演で印象的だった「マイナスをシェアしプラスに変える」という言葉。生活協同組合が豚肉の1頭買いをするために、班を構成する組合員がロット単位で予約購入するシステムを考案したことを例にされていました。生産者から直接購入するために1頭分の肉をバランスよく引き受けなければならない課題を解決するために、欲しい部位の肉ばかりでなくみんなでまとめて買う。マイナスを仲間とシェアすることで市場では手に入らない健康な豚の肉を手に入れることができたのです。そのようなマイナスのシェアはワーカーズ・コレクティブでは普通に行われています。小さな子供を育てる母親は働く時間を長く取りにくいですが、そんな事情を他の仲間がみんなでフォローし、子供の体調で急に休む事態でも事情をくんで代り合います。それによって子育て中の母親が社会参加でき、また組織にとっても若い仲間を得ることができます。子育て中の母親に限らず、一般での働く場がない高齢者や、働きにくい障がいを持つ方とともに働く場を作る工夫をするワーカーズ・コレクティブも多いのです。一人ひとりが経営に責任を持つために会議が多



根岸実行委員長



志波早苗さん

いのもマイナスですが、そのためにメンバーが成長するというプラスも見逃せません。

一般ではマイナス要素はお金をかけたり効率を上げることで解決し、競争の原理で切り捨てる事も普通です。ワーカーズ・コレクティブは分かち合いの原理で、人と人のつながりの力で解決し、その力が組織やメンバーだけでなく社会へのプラスとなるのです。

本気で関わることの意味

志波さんが用意された資料「生協に関わる仕合せ」(生活協同組合研究 2016.11)からの文章を、私たちに引き寄せて使わせていただきます。

「働く人の協同組合であるワーカーズ・コレクティブでは一人ひとりが物事に真剣に向き合う中で、対立や齟齬を体験することもあります。それを乗り越えた経験は大きな意味を持ちます。合意形成する過程で自分の意志や判断を問われ、考え、言葉にすることを繰り返し、そのことで知らず知らずのうちにメンバーは成長しているのです」私たちは本気でワーカーズ・コレクティブに関わる中で力をつけ、社会のマイナスをプラスに変えていける存在になるのだと思いました。

フォーラム実行委員長 根岸真澄

志波早苗さん講演内容は3ページに掲載

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会 情報誌 WAVE62
〒336-0031 さいたま市南区鹿手袋1-5-3 ひゅうまんポスト2F

電話/FAX 048-844-0221

E-mail saitama.waakore@gmail.com

<http://saitama-workers.com/>

編集制作 ワーカーズ・コレクティブ ピアズねっと
1部 ¥100

お知らせ

第13回 ワーカーズ・コレクティブ 全国会議 in 北海道

「うばいあう経済から助けあう経済へ」 ～ワーカーズ・コレクティブは社会的経済の担い手～

2017年
10月21日(土) 分科会 13:15~15:45

北海道立道民活動センター

懇親会 17:30~

北大北部食堂

22日(日) 全体会、自主企画 9:30~15:30
共済ホール

23日(月) ツアー 10:00~
詳細後日